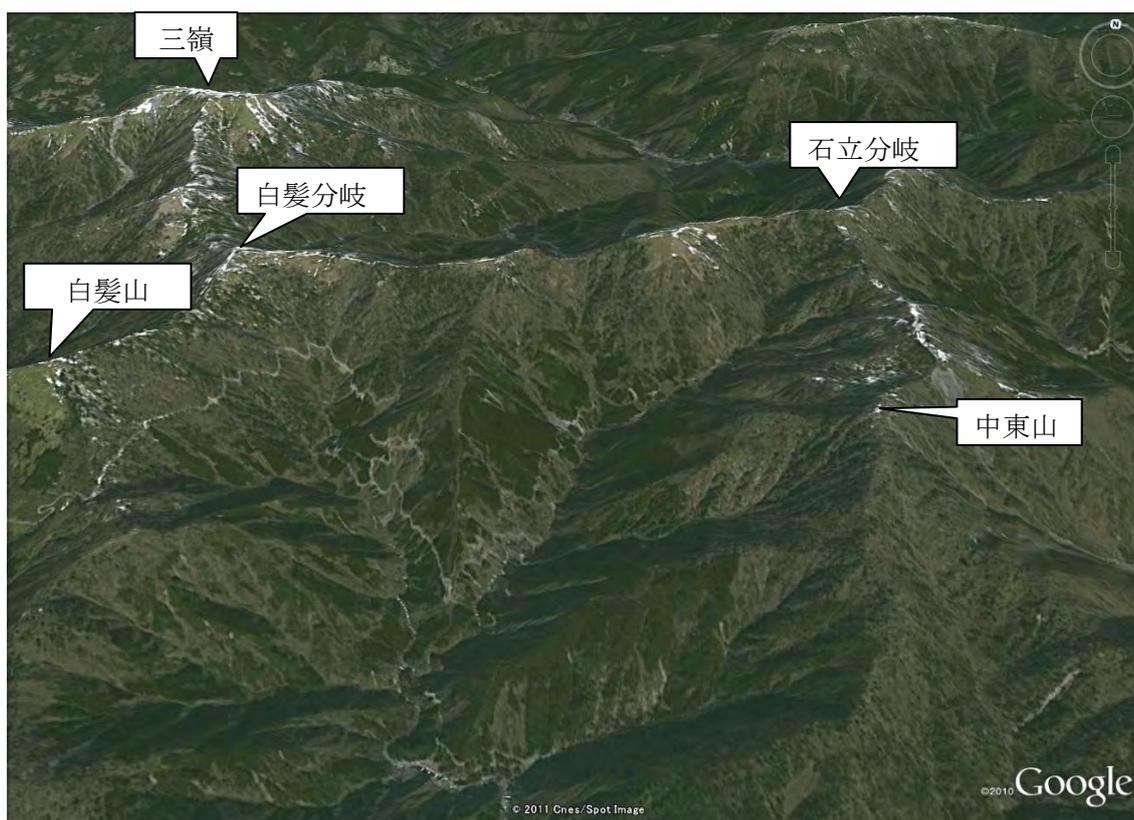


三嶺周辺における個体数調整事業の成果について

【はじめに】

- ・ 三嶺の南の白髪山（標高 1770m）、白髪分岐、石立分岐、中東山（標高 1685m）で囲まれる国有林(別府山国有林 54 林班：168ha 55 林班：160ha 62 林班：164ha 63 林班:212ha)において、平成 20 年度から個体数調整事業がおこなわれている。
- ・ これは、地方自治体が主体になった高標高域における捕獲事業として四国では初めての取り組みであり、また、事業実施区域が三嶺周辺で被害が最初に確認され、かつ被害の程度が深刻な地域であったため、その効果に期待が寄せられていた。
- ・ 平成 20 年度の事業開始以来ほぼ 3 年が経過したことから、事業の結果と、その効果について考察してみた。

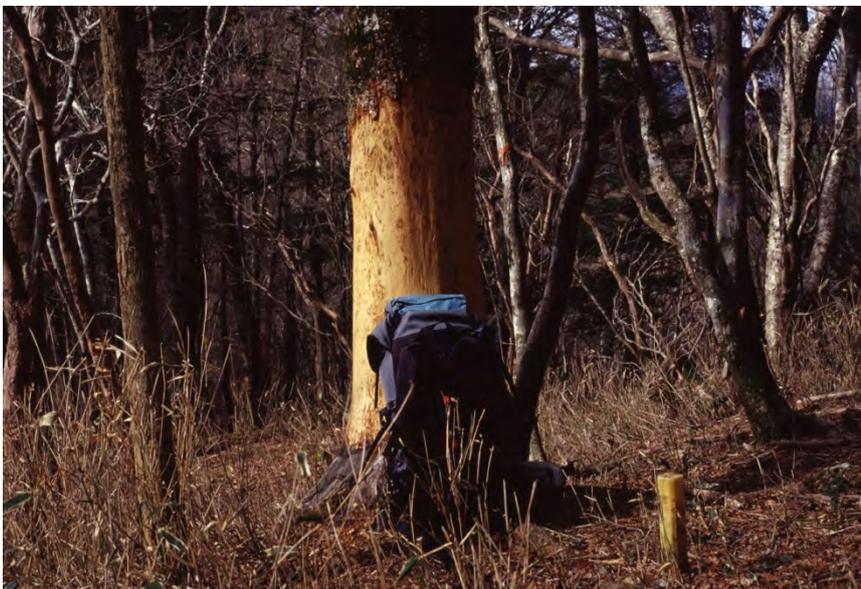
【事業実施場所の状況】



【捕獲区域の被害状況 平成 15 年 5 月】

捕獲区域では、平成 15 年春には、ウラジロモミやヤマヤナギの樹皮剥ぎ、ササの食害等既に被害が発生していた。特に、石立分岐から南の県境稜線においては、ウラジロモミが幹の周り全部について樹皮を剥がれたり、スズタケが枯れたりする状況が見られた。

(写真上は、白髪分岐小屋東の稜線 下は石立分岐南の稜線)



【捕獲区域の被害状況 平成 20 年 6 月・7 月】



捕獲区域では、白髪分岐と中東山では被害の進行が異なっていた。

写真上段は、白髪分に小屋周辺から東にかけての尾根（高知県側）の状況。

ウラジロモミについては、枯死したものがあるが、ササは枯死の段階には至っていない。

写真下段は中東山北部の稜線の状況。左の写真は、徳島県側。右は高知県側。

ササ（多分ミヤマクマザサ）は既に平成 19 年の段階で枯死し、白くなった稈が残っている状態。徳島県側では、イワヒメワラビが繁茂しかけている。

【捕獲事業の実施】

平成 19 年に、自然保護団体に行政も加わって、三嶺、お亀岩、綱附森、白髪山一帯で一斉調査を実施した。

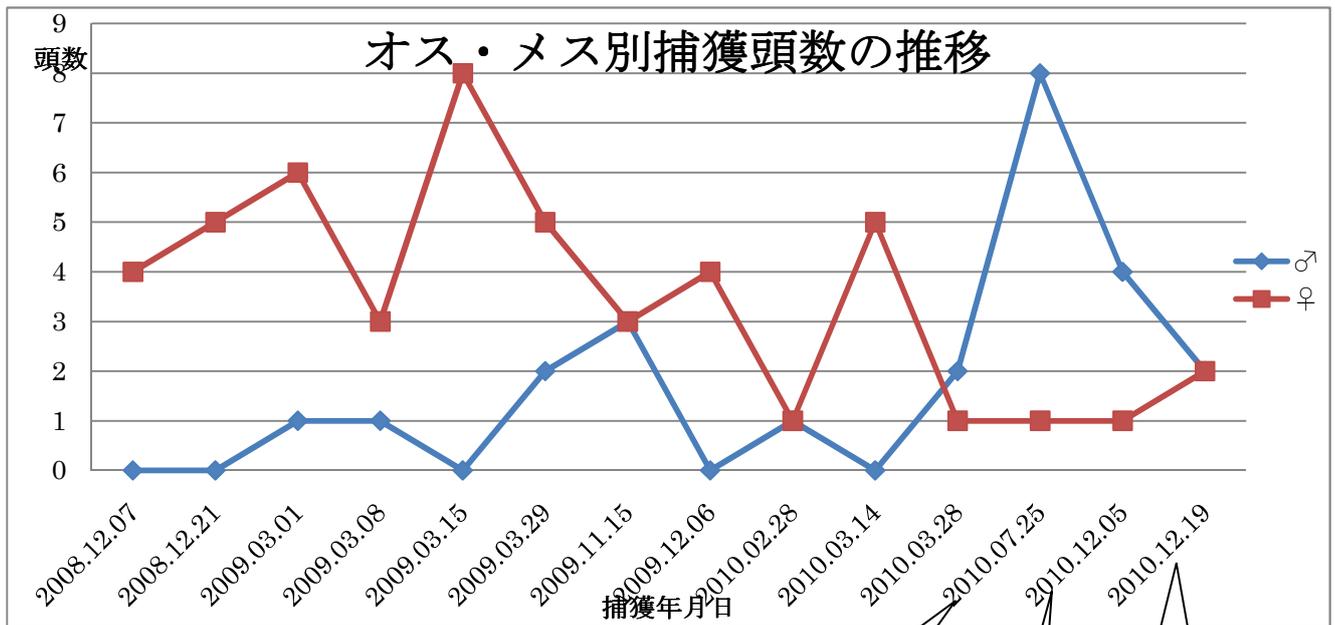
その結果、高標高域における捕獲事業が緊急の課題であるということで、平成 20 年度に予算化され、高知県の事業としてスタートした。

- 平成 20 年度 高知県シカ個体数調整事業（山岳地）
- 平成 21 年度～ 香美市シカ個体数調整事業

【捕獲実績】

事業が開始された平成 20 年度から、平成 22 年 12 月 19 日までの間の、捕獲日ごとの捕獲実績は次のとおりである。

捕獲日	捕獲頭数			♀/all 比
	♂	♀	計	
2008.12.07	0	4	4	100%
2008.12.21	0	5	5	100%
2009.03.01	1	6	7	86%
2009.03.08	1	3	4	75%
2009.03.15	0	8	8	100%
2009.03.29	2	5	7	71%
2009.11.15	3	3	6	50%
2009.12.06	0	4	4	100%
2010.02.28	1	1	2	50%
2010.03.14	0	5	5	100%
2010.03.28	2	1	3	33%
2010.07.25	8	1	9	11%
2010.12.05	4	1	5	20%
2010.12.19	2	2	4	50%



捕獲に従事された方のコメント

夏の個体群の特徴

群れがあまりいなかった。ほとんどが単独または2～3頭で行動をしていた。徳島県側へ抜けていったシカも何頭かいた。

冬の個体群の特徴

朝方に約10～20頭の群れが白髪避難小屋周辺で固まっていたが、犬を放した瞬間、徳島県側(名頃方面)にほとんどが逃げた。

今回は、捕獲区域内でニホンジカがあまり確認できなかった。

個体群の頭数の推移を示している

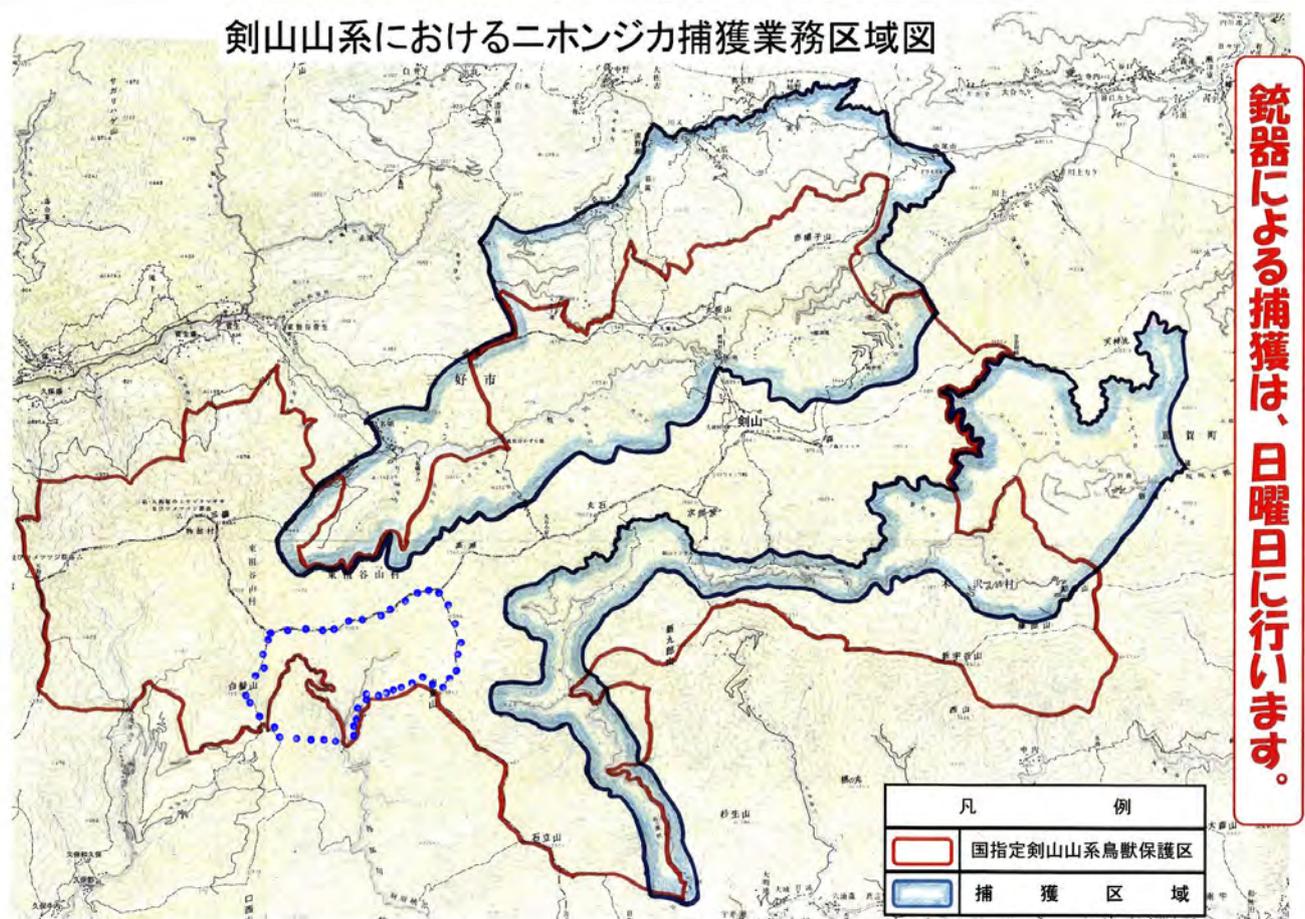
- ・ メスジカの捕獲頭数は徐々に減少傾向。一方オスジカの捕獲頭数は増加傾向にある。
- ・ 年間の捕獲頭数は、平成20年度35頭、平成21年度18頭、平成22年度(途中)18頭。
- ・ 捕獲作業に従事された方のコメントは、シカの個体群の動向をよく観察し特徴をつかんだものになっている。

【事業の効果について】

- 個体数を減少させる上で効果の大きいメスジカを多く捕獲している。
- 捕獲日ごとのメスジカの比率（♀／全数）の推移を見るとは、当初 100%であったものが、徐々に小さくなり、平成 21 年 3 月以降捕獲されるメスジカの数、オスジカより少なくなった。
- 年間の捕獲頭数は、捕獲を開始した時点より少なくなる傾向にある。
- 捕獲の際の目撃数も少なくなり、直近では「ニホンジカがあまり確認できなくなった」レベルになっている。
- 62 林班、63 林班では、林道、登山道、林内ともシカの足跡は少なく、個体数が少なくなっていることが推測される。（2010.12.10 5 時間で目撃 0）
- 隣接する 61 林班における糞粒調査による生息密度（頭数/1 km²）推計値の推移
(H19 : 84 H20 : 18 H21 : 15 H22 : 0)

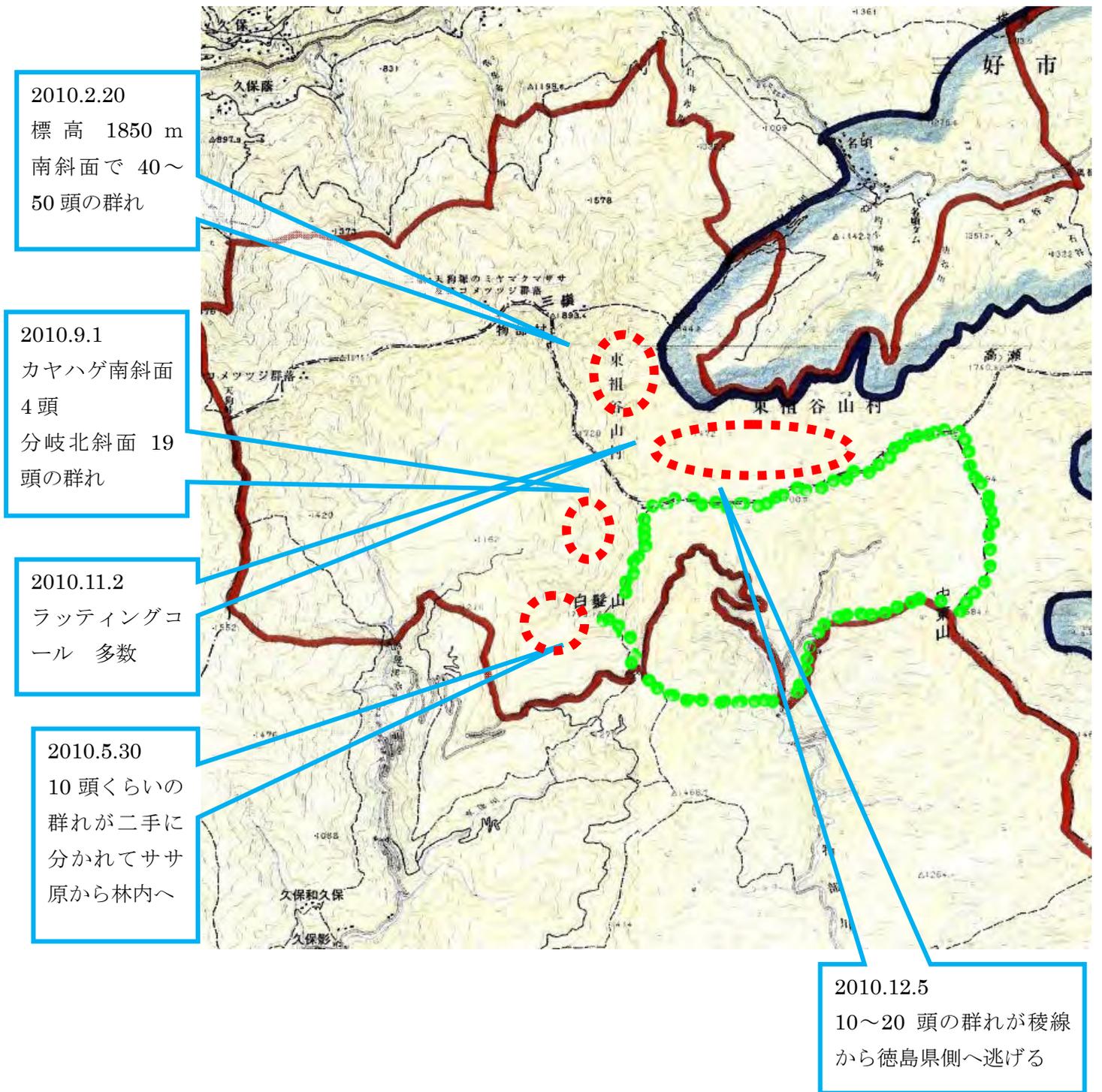
以上のことから、この事業については、「個体数を減少させる上で、局所的には有効に働いた」といえる。

【剣山系の鳥獣保護区における捕獲事業の課題】



- 被害が著しい稜線部とそれに隣接する樹林帯が、一部を除いて捕獲区域になっていない。

【三嶺・白髪山付近における状況】



- ・ 2010 年 2 月以降における登山者等の目撃情報、ササ等の被害状況から、捕獲区域外において高密度に生息しているのではないかと、懸念される。  の部分。
- ・ 捕獲圧をかけるに当たっては、分布の前線部でなく、分散源となっている地域（メスがたくさんいる地域）で捕獲することが効果的とされており、捕獲区域の見直しが必要ではないか？